全組合員の雇用と利益を守り抜くため、あらゆる組織破壊策動を許さない千葉地本見解

JR 東労組は、18 春闘で顕在化した運動の誤りを猛省し「大敗北」と総括して以降、「新生 JR 東労組」の一員として労使関係の再構築と組合員からの信頼回復、そして離脱した仲間の再加入や新規加入を目指して運動を創り出している。

JR 東労組千葉地本は、会社施策や職場で発生する問題に対して「信義誠実な労使議論」を重視し、組合員や離脱した仲間との議論を出発点に、団体交渉を通じて組合員の不安払拭につながる確認を行い、「労働者の心が反映された施策」へとつくり変えるために運動を進めてきた。中でも、組合差別や不当労働行為と思われるような事象については、職場で発生した事象を具体的に指摘し、グループ会社を含めて不当労働行為はあってはならないこと、疑わしいことの撲滅に向けて管理者に徹底すること、組合加入の有無によって差別しないことを繰り返し確認してきたことによって、離脱した仲間が再加入し組織強化・拡大を実現してきた。

一方、バス職場で抱える問題については、バス館山分会では乗務行路の問題を解決するために職場からアンケート運動を取り組み、定期委員会での発言へと積み上げてきた。また、バス八日市場分会では、成田空港線の新規路線開業で不安視された問題を組合員の集まる場を通じて意見集約し、バス関東本部とバス関東会社の団体交渉にまで高めて労働協約化したほか、バス両分会は新規加入を目指して職場から実践し、組合員を守るために連携してたたかってきた。

そのような中、東京・水戸・八王子地本の一部の職場では「①東労組を脱退して分裂組織に行くのか」「②東労組に残るのか」「③どこの組合にも属さないで無所属となるのか」の３択を迫られ、組合員からは「どうすれば良いのか分からない」「役員は考えが凝り固まり、話を聞いてくれない」「意見を言っても論破される」「相談もなく勝手に決まっていた」など、職場集会の内容や不安の声が中央本部に報告され、組織破壊策動が一部役員（以下、組織破壊策動者と呼ぶ）によって行われていることが明らかになった。

労働組合の役員の任務は、組合員が安全で安心して働ける職場と労働条件を実現し、労働協約によって組合員を守ることである。それに対して、今回の組織破壊策動は、JR 東労組が締結してきた労働協約の適用外へと組合員を追いやる行為であり、役員として無責任極まりない。まして、役員の言動で組合員を不安に陥れることは、業務への集中を削ぎ、安全上も問題である。さらに、20 春闘で定期昇給維持とベアの実現を目指す中での組織破壊策動は、12 地本の団結と春闘を破壊する行為と言わざるを得ない。

JR 東労組は、組合員とバスの仲間を置き去りにした 18 春闘のような運動を二度と繰り返さないために、これまでの運動の過ちを認め「大敗北」と総括した。なぜなら自らの過ちを認める組織でなければ組合員からの信頼を得ることはできないからである。その新生 JR 東労組に結集する良識ある組合員を惑わし、組合員の利益を奪う組織破壊策動者を許すことは出来ない！自らの主張を「正論」と称し、その他の主張を「丸飲み」「御用組合」とし、全てを中央本部と会社のせいにする組織に「仲間との助け合い」を基礎とする労働組合活動ができるとは思えない。

JR 東労組千葉地本は、組合員や離脱した仲間から信頼される組織を目指して、これからも中央本部と共に歩み続ける。そして、地本や所属会社の壁を越えて、JR 東労組組合員であり続けることを訴えて見解とする。

２０２０年１月２８日

東日本旅客鉄道労働組合千葉地方本部